

第1回地下街と駅周辺地域活性化分科会記録

日 時 平成21年7月24日（金）20:00～21:00

場 所 小田原箱根商工会議所 4階 会員談話室

経 過

はじめに、自己紹介をそれぞれ行った後、分科会の名前を商業者だけでなく、消費者目線での検討をしていくので、「地下街と駅周辺商店街活性化分科会」→「地下街と駅周辺地域活性化分科会」に変更して、今後の進め方について検討した。

まず、分科会で検討する「駅周辺地域のエリア」の検討をした。小田原市の3事業を結ぶ範囲か？それとも、国道1号線くらいまでの範囲にするかなど意見が出され、街の回遊性を高めるためにはどうしたら良いかなど考えるとお堀端の先の1号線くらいまでの範囲で活性化について検討していくこととした。

どのようなテーマにしていくかの検討もした。

- ・ 小田原は、お城があるのだから、お城までは、風情ある通り（街）、居住がる通り（街）、消費者の買物する通り（街）など機能を持たせていくべきでないか。
- ・ 現在のギャップを整理していくべきでないか。
- ・ 土産を買う楽しみのある街並み、歩く楽しさのある街並み、風情を楽しむ街並みがあればとっても楽しい。
- ・ お城を含め駅周辺地域の回遊性を持たすためにゾーニングの検討。
- ・ 天守閣に魅力があればもっとお客さんは来るのではないか？
- ・ 天守閣に魅力あっても何度も行く気にはならないのではないか？やはり街並みがないとお客さんは回遊しない。
- ・ 個人的には天守閣から夜景を見るイベントなんかあっても面白いと思う。
- ・ 伊勢神宮にある「おかげ横丁」は、何度行っても面白い。
- ・ 今現在ある資源で、通りの役割を決めていきたい。通りによっては、車よりも人優先の通りがあってもいい。
- ・ 民間でないと出来ないような発想がでてきているので、街づくり会社が必要ではないか。お客さんの目線で事業をしていくべき。
- ・ 来街者の志向、生活者が喜んでもらえる街、市民集まれる街を検討したい。

以上の意見が出され、お城を中心にした街の回遊性をどのように高めるか？ゾーニング、役割を検討していくこととした。また、テーマは「駅と城と街なかのリンケージ」とした。

※平成19年にタスクフォースでまとめた提言書があるが、その内容を知らない方が分科会に参加しているので、それぞれ参加者で提言内容を頭の中に入れることにした。

以上

<当日出席者> *順不同・敬称略

古川達高、石田一夫、佐藤慎一、中戸川洋、松本大地、豊住武志